【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【公表番号】特表2016-512903(P2016-512903A)
【公表日】平成28年5月9日(2016.5.9)
【年通号数】公開・登録公報2016-027
【出願番号】特願2016-504446(P2016-504446)
【国際特許分類】
Ｇ０９Ｇ　3/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２２Ｇ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６８０Ｇ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６１１Ｊ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６７０Ｅ
Ｇ０９Ｇ　3/20　６２２Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成28年3月15日(2016.3.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明の一態様は、
第１の出力イネーブル信号により、隣接する行のゲート駆動信号を分離するゲート駆動回路と、
ゲート駆動信号をカットオフする必要がある場合、シールド信号をトリガ生成するシールド信号生成回路と、
前記シールド信号によって前記第１の出力イネーブル信号をシールドすることで、ゲート駆動信号をカットオフするゲートシールド回路と、
を備え、
前記第１の出力イネーブル信号が前記ゲートシールド回路の第１の入力端に入力され、前記シールド信号が前記ゲートシールド回路の第２の入力端に入力され、前記ゲートシールド回路の出力端が前記ゲート駆動回路に接続される表示駆動回路を提供する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
表示駆動回路であって、
第１の出力イネーブル信号により、隣接する行のゲート駆動信号を分離するゲート駆動回路と、
ゲート駆動信号をカットオフする必要があるとき、シールド信号をトリガ生成するシールド信号生成回路と、
前記シールド信号によって前記第１の出力イネーブル信号をシールドすることで、ゲート駆動信号をカットオフするゲートシールド回路と、

を備え、前記第１の出力イネーブル信号が前記ゲートシールド回路の第１の入力端に入力され、前記シールド信号が前記ゲートシールド回路の第２の入力端に入力され、前記ゲートシールド回路の出力端が前記ゲート駆動回路に接続される表示駆動回路。

【請求項２】

前記ゲートシールド回路は、第１のトランジスタ、第２のトランジスタ、第１の電気抵抗、第２の電気抵抗及び第３の電気抵抗を備え、

前記第１のトランジスタは、ゲート電極が前記第１の入力端として前記第１の出力イネーブル信号を受信し、ソース電極が電源に接続され、ドレイン電極が前記第１の電気抵抗の一端に接続され、

前記第２のトランジスタは、ゲート電極が前記第２の入力端として前記シールド信号を受信し、ソース電極が電源に接続され、ドレイン電極が前記第３の電気抵抗の一端に接続されて前記出力端とされ、

前記第１の電気抵抗の他端は、前記第２の電気抵抗の一端及び前記第３の電気抵抗の他端に接続され、

前記第２の電気抵抗の他端が接地される請求項１に記載の表示駆動回路。

【請求項３】

前記シールド信号は、タイミングコントローラによりトリガ生成される請求項１又は２に記載の表示駆動回路。

【請求項４】

請求項１～３のいずれか１項に記載の表示駆動回路を備える表示装置。

【請求項５】

請求項１に記載の前記表示駆動回路を駆動する駆動方法であって、

第１の出力イネーブル信号によって隣接する行のゲート駆動信号を分離する工程を備えるとともに、

ゲート駆動信号をカットオフする必要があるとき、シールド信号生成回路がシールド信号をトリガ生成する工程と、

ゲートシールド回路が前記シールド信号を検出したとき、第１の出力イネーブル信号をシールドすることで、ゲート駆動信号をカットオフする工程と、を備える駆動方法。

【請求項６】

前記シールド信号の電圧がハイレベルであるとき、前記第１の出力イネーブル信号をハイレベルにプルアップする請求項５に記載の駆動方法。